

校内別室で交友関係を育み、自信につなげる

不登校児童の状況

対象児童は、不安が原因で小学校4年生のときに登校できない状態が続き、小学校5年生から校内別室に登校し始めた。他学年の児童と仲良くなり、友達ができたことで登校頻度が増えた。小学校6年生の後半には、毎日登校し、行事に参加したり、週に1回程度教室に入って授業を受けたりすることができていた。

具体的な取組

○スケジュールと場所の選択

気持ちや活動内容によって、1日の過ごし方を選択できるようにした。最初の頃は、仕切りがある個別スペースで過ごしていたが、友達ができ、共有スペースで過ごす時間が増えた。

オンライン授業や静かに過ごしたいときは、個別スペースを利用した。



○情報共有（学習支援アプリ）

登校した時間やその日の様子を、毎日学習支援アプリに投稿し全教職員が情報共有できるようにした。最終的に入学年度ごとに分けて校務支援アプリに記録し、生活指導夕会で共有した。分掌ごとにばらばらになりやすい情報を1か所にまとめ、過去の情報にもアクセスしやすくした。

○話合いで育む対応力

毎週テーマを決めて、話合いを行った。日常の心配事や教室で起こったら困りそうなことについて、どう対処するかアイデアを出し合った。様々な考え方に触れ、不安を感じる原因や、自分がとる行動について具体的な場面を想定して考えることができ、実際の場面で落ち着いて対処することができていた。

○小中連携でつなぐ安心できる環境

SCとの信頼関係をきっかけに、校内別室に登校することができるようになった。支援員や友達と仲良くなり、安定して登校でき、教室にも行けるようになった。進学時は地区の特性を活かし、中学教員が校内別室に来て関わりをもち、安心できる環境を継続できるようにした。

成果

当該児童の状況に応じて支援方法等を工夫することができた。校内別室で過ごすことが増えるにつれ、交友関係の広がりが見られ登校意欲につながった。

課題

児童の登校や学習状況の細やかな把握、保護者、担任や関係機関との連絡・連携が不可欠である。指導員だけでは難しいため、コーディネーターの役割を担う教員の明確化を検討していく。